

業界との緊密な連携で市場開発を実現 中国国家観光局・羅玉泉駐日首席代表に聞く



羅玉泉首席代表

本誌では、昨年9月号から今号まで12回にわたって、「素材研究 特別編」として中国の「今」を伝える特集企画を連載してきました。シリーズの掉尾を飾る今回は、中国国家観光局駐日本代表処の羅玉泉首席代表に、訪中日本人旅行者の増加や日中間の交流拡大に向けて、その思いを語っていただきます。

年間の日本人旅行者は300万人近くに

：今年3月にJATA本部で「中国旅行復活緊急フォーラム」が開催されてから半年ほど経過しましたが、現在の日本マーケットの状況をどのようにご覧になっていますか。

羅代表 中国側の統計によると、今年1月から5月までの5カ月間に中国を訪れた日本人旅行者は、前年同期比5%増を記録しました。日本の旅行業界の皆さんに、新しい素材やコースも含

めたパッケージ商品の造成に取り組んでいただいていますし、中国国家観光局としても上半期に続いて中国各地へファムツアーを実施したり、一般向けにも様々なイベントも開催してきています。両国間の社会的な環境の変化などもあり、需要も堅調に推移していますし、個人的な感覚としては、一般の日本人旅行者の皆さんの中国に対する関心は以前よりも強まってきたと感じています。昨年は訪中日本人旅行者数が前年比でマイナスにとどまりましたが、今年は昨年の250万人から300万人近くまで増加して、10%以上のプラス成長に転じるだろうと見込んでいます。

：具体的な動きとして、特に、注目されていることはありますか。

羅代表 中国の各地方からも日本でのプロモーションのためにミッションが相次いで訪日しており、日本のマーケット向けにPRを強化して、日本人旅行者を歓迎しようという取り組みが進められています。特に、現在は、日本と中国の政治関係などに関わらず、民間の交流を進めることの重要性に対する認識が定着しており、文化交流や青少年交流など、様々な形で交流拡大への期待が日中双方で高まっていることを実感しています。また、日本を訪れる中国人旅行者が増えている中で、双方向交流という観点からも、より多くの

日本人旅行者にも中国を訪れていただき、現地の様子を直接見ていただくことも大事なのではないかと考えています。

中国旅行に新たなトレンドやムーブメントを

：訪中日本人旅行者の増加や日中の交流拡大に向けて、旅行業界とはどのように協力を進めていくお考えですか。

羅代表 日本の海外旅行市場は、1990年代に1800万人まで拡大し、日本人旅行者は中国でも各地を訪れるようになりました。近年では、インバウンドが急速に拡大する一方で、日本からの海外旅行者数は伸び悩んでいるのが実状です。旅行業界が「海外旅行復活」を掲げて需要の回復に取り組んでいるわけですが、中国は日本市場での重要なデスティネーションですから、中国国家観光局としても、旅行業界との緊密な連携を通じて、需要創出や市場開発を実現していきたいと考えています。中国は日本から一番近い大陸の国であり、歴史や文化も多彩ですから、その魅力を具体的な商品にしたい、ということは、中国国家観光局の義務と責任だと思っていますが、同時に、日本の旅行者の皆さんに商品として提供することが、日本の旅行業界に果たしていただく役割だと期待しています。中国国家観光局だけでなく、中国各地の地方観光局や日本人旅行者を受け入れている現地の旅行業界も日本市場の活性化には大きな期待を寄せています。

：具体的な手法としては、どのようなことを想定されていますか。

羅代表 中国観光の今年のテーマは「シルクロード」でしたが、今後は、中国の最新の面白いところを旅行業界の皆さんと一緒にマーケットへアピールしていきたいと思っています。例えば、JATAの会員会社とも協議しながら、日本市場にアピールしそうなエリアやテーマを絞り込んで、日本から中国の41都市へ路線を展開している航空会社にも協力してもらい、重点的にプロモーションを進めることで、中国旅行の新しいトレンドやムーブメントを作ることができたらと思います。現地側の各観光局とも互いに手を携えて、広大な中国の多様な魅力への理解を深めていただけるように努力していきたいと思っています。



今年9月に開催された中国湖南国際旅行商大会・国際旅行祭には日本の旅行会社も参加し、現地の視察も行われました